



AIDS UPDATE

No.148 2026/9/3

発行者：広島大学病院 エイズ医療対策室

電話番号：082-257-5555(代表)、内線：5351



最新トピックス：新薬情報

薬剤部 HIV感染症専門薬剤師 石井 聡一郎

1日1回1錠で内服できる抗HIV薬（STR）に「イドビンソ配合錠」が新しく仲間入りしました！

この薬には世界に先駆けて日本で初めて実用化された、新しいメカニズムを持つ成分が含まれています。今回はこの「イドビンソ配合錠」の特徴や服薬時の注意点について解説します。

1日1回1錠で内服できる抗HIV薬（STR）に「イドビンソ配合錠」が新しく仲間入りしました！

この薬には世界に先駆けて日本で初めて実用化された、新しいメカニズムを持つ成分が含まれています。今回はこの「イドビンソ配合錠」の特徴や服薬時の注意点について解説します。

イドビンソ配合錠

●基本情報

- ・商品名（一般名）：イドビンソ配合錠（ドラビリン/イスラトラビル水和物）
- ・剤型：ピンク色の楕円形の錠剤（ビクタルビ配合錠より大きくドウベイト配合錠より小さい）
- ・特徴的な作用機序：従来のNNRTI（非ヌクレオシド系逆転写酵素阻害剤）であるドラビリンと、新規作用機序であるNRTTI（ヌクレオシド系逆転写酵素トランスロケーション阻害剤）のイスラトラビルを配合しています。「逆転写酵素トランスロケーション阻害」と「遅延型のDNA鎖伸長停止」という2つの異なる働きでウイルスの増殖を強力にブロックします。

●服用方法

- ・1日1回、食事に関係なくいつでも服用できます。
- ・食事の影響を受けないため、ご自身のライフスタイルに合わせて「できるだけ同じ時刻」に服用します。

●主な副作用

これまでの臨床試験において、主な副作用として以下のような症状が報告されています。

- ・頭痛、浮動性めまい、胃腸症状（下痢、腹部膨満など）、疲労など

万が一、服用を始めてから体調に変化や気になる症状が現れた場合は、自己判断で薬を止めず、すぐに主治医や薬剤師にご相談ください。

●服用上の重要ポイントと注意事項

- ・他のお薬・サプリメントとの相互作用に注意：一緒に飲むとお薬の効果が弱まってしまう組み合わせがあります。現在服用しているお薬やサプリメントがある場合は、必ず事前に医療関係者へお伝えください。
- ・B型肝炎（HBV）に関する注意：このお薬には、B型肝炎ウイルスに対する活性を持つ成分が含まれていません。

●おわりに

新薬の登場により、治療の選択肢がさらに広がりました。食事の有無に左右されないなど、毎日の服薬管理がよりスムーズになるメリットもあります。

「自分にとって最適な治療薬は何か」「この薬に切り替えられるか」など、興味や疑問がありましたら、どうぞお近くの医師、薬剤師、看護師等にお気軽にお声がけください！

2026年度 看護師のためのエイズ診療従事者研修 開催報告

エイズ医療対策室 看護部 芳 本 和 子

広島大学病院では、毎年、看護師を対象に基礎的なHIV・エイズ看護研修会を開催しています。今年度は、2026年6月18～19日、7月23～24日の2回（各2日間）開催し、中国・四国地方のほぼ全ての県から、計26名の方にご参加いただきました。

研修では、当院の医師、薬剤師、歯科衛生士、公認心理師、医療ソーシャルワーカーに加え、院外よりお招きした看護師による講義を行いました。また、薬害エイズ被害者の方や、性の多様性について啓発活動をされている方にもご登壇いただき、ご自身の体験を交えながらお話しいただきました。

参加者からは、「薬害エイズのことはあまりよく理解していなかったが、今回実際にお話を伺い、とても衝撃的でした。」「遠い昔のことかと思っていたが、様々な出来事がかなり最近のことで驚いた。」「性の個性性を特別なものと考えず、それが個性であることを伝えていきたい。」「事例などで考えさせられることが多かった」といった感想が寄せられました。当事者の方から直接お話を伺うことで、多くの学びや気づきを得られたことがうかがえました。

また、HIV陽性者の方を囲んだ座談会では、診断を受けた当時の思いや家族への気持ちなどについて、参加者からの質問に答えていただきました。参加者からは、「セクシャリティなどにふれていいか、どう関わるべきか悩んだが、看護師として一人の患者として関わりたいと思った。」「陽性者の方のリア

ルな話が聞けて、今後患者さんへの関わり方などに活かせる内容であった。」といった声が聞かれました。

研修の最後には、参加者全員で看護面談のロールプレイを実施しました。看護師役と患者役を演じることで、性について言葉にする難しさや、正しい知識を分かりやすく伝えることの重要性を体験的に学びました。参加者の約半数はHIV陽性者への支援経験がありませんでしたが、「どのように伝えるか」「気持ちに寄り添うためにはどうすればよいか」などについて活発な意見交換が行われ、学びを深める機会となりました。

今後も、HIV看護に携わる看護師が安心して学び、実践につなげられる研修会を継続して開催してまいります。

最後に、ご参加いただいた皆様、ご講義・ご協力いただいた講師および当事者の皆様に、心より感謝申し上げます。



第1回HIV/AIDS専門カウンセラー研修会のご報告

エイズ医療対策室 臨床心理士 黄 寛 美

7月25日、26日に第1回HIV/AIDS専門カウンセラー研修会を開催しましたので、ご報告いたします。

この研修会は「薬剤師のための抗HIV薬服薬指導研修会」と同時開催となっており、薬剤師、心理職、ソーシャルワーカーが一堂に会して学ぶ形式となっ

ています。一部のプログラムは別々に進行しますが、前半の講義と後半のロールプレイは3職種合同で実施しました。

大阪医療センターの廣田医師による講義では、HIV感染症の基礎から最新のトピックスまで幅広く取り上げられ、支援に携わる職種にとって大変心強

い内容となりました。参加者からは、「内容が盛りだくさんでわかりやすく、学びになった」といった感想が寄せられました。

福井大学医学部附属病院のソーシャルワーカーである三嶋先生の講義では、長期療養時代における支援や、心理職とMSWの協働についてご講義いただきました。

「患者の高齢化に伴う問題」に向けての取り組みに加えて、今後の多職種連携に向けた企画や実践例についてご紹介いただき、長期療養時代における支援のあり方を考える機会となりました。参加者からは、連携の大切さだけでなく、それぞれの職種に求められる役割や、より良い支援のあり方について考えを深めることができたという感想が多く寄せられました。

昨年度より、専門カウンセラー研修会における事例検討はPCAGIP法を用いて実施しています。今回は初めて事例提供者という立場で参加しました。自分でも驚くほど緊張しており、「心臓の動きが外から見えなくて良かった」と思うほどでした。参加者の皆様からの温かい問いかけや多様な視点に触れ

ることで、自身の実践を振り返り、新たな気づきを得る機会となりました。緊張していたことが伝わらなかったのであれば、それは参加者の皆様が安心して話せる雰囲気を作ってくくださったおかげだと思います。改めて、対話を通して学びを深めるPCAGIPの意義を実感する時間となりました。

2日目のロールプレイでは、普段なかなか見る機会のない多職種による面談場面を通して、各グループで支援について検討しました。さらに、グループでの意見を全体で共有しながら、多職種連携における支援の在り方について学びを深めました。

2日間とも快晴で気温がとても高く、皆さまの顔に「暑い」という文字が見えるほどでしたが、無事に終えることができました。今後も皆様からいただいたご意見をもとに内容をブラッシュアップしながら、より充実した研修会を開催してまいります。来年度もご参加をお待ちしております。



HIV陽性者の長期療養体制整備事業研修会のご報告

『HIVとともに生きる人々が住み慣れた地域で安心して暮らせるために』

エイズ医療対策室 ソーシャルワーカー 重 信 英 子

HIV感染症の治療薬が向上したことで、現在では非HIV感染者と比較しても寿命に大きな差がない時代となりました。その一方で、加齢に伴う併存疾患やADLの低下などへの対応が、PLWH（People Living with HIV：HIVと共に生きる人々）にも必要となっています。しかし、PLWHが住み慣れた地域で他の人々と同様の支援を受けられる環境は、未だ十分に整っているとは言えません。

そこで、福山市のエイズ治療中核拠点病院である福山医療センターが、広島県、広島市、呉市、福山市および県内すべてのエイズ治療拠点病院と協働し、令和8年7月17日に地域の医療・介護福祉従事者を対象として開催したHIV研修会について報告します。

研修参加者は、県内の医療、高齢・障害福祉、行政分野で勤務する医師、看護師、保健師、介護支援専門員、介護職員、ソーシャルワーカーなど90名で

した。これまでHIV感染症について直接学ぶ機会のなかった方も多く参加される中、研修では現在支援に携わっている機関から、受け入れに至るまでの準備や経過、今後の支援課題について発表が行われ、意見交換も行われました。

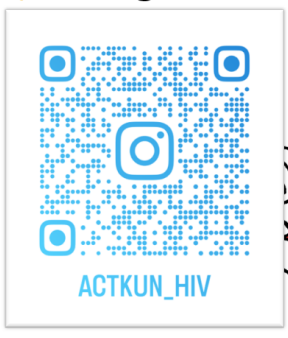
発表者である地域包括支援センターからは、「エイズ治療拠点病院から利用希望者の疾患や状態について説明を受けた際、次につながる地域資源が疾患を理由に受け入れを断らないか不安だった。地域社会へのさらなる啓発の必要性を感じている」との発言がありました。また、訪問看護ステーションからは、「これまで対応経験のない疾患であったため戸惑いはあったが、事前の勉強会で疾患の歴史的背景を学び、社会的孤立や支援者への不信感を抱く当事者の背景を理解することができた。利用者が支援者に警戒心を持つのは当然であり、焦らず寄り添う支援を心掛けることが大切」との意見もありました。さらに、福祉用具会社からは、「個人のプライバシーや尊厳を守るため、社内や関係機関との情報共有を慎重に行った」との報告がありました。各分野におけるこうした実践は、PLWHに寄り添った丁寧な支援につながっており、各機関が前向きに取り組んでいる様子をうかがうことができました。

今回の研修を通して、PLWHが安心して暮らせる地域づくりには、支援者自身が安心して支援に取り組める土台づくりが不可欠であり、そのためには地域啓発研修を継続していくことの重要性を改めて強く感じま

した。また、地域支援につながった後も、エイズ治療拠点病院として継続的にサポートできるよう、地域とのつながりを大切にしていきたいと考えています。



👉 Instagram随時更新中です 📷



ACTKUN_HIV



水曜は「ACTくんログ」をストーリーにのせてます♪

【ご案内】 今年も開催！ HIROSHIMA PRIDE PARADE

2025年に初めて広島で開催されたイベントです！

元々は1970年にアメリカで始まったパレードですが、日本でも東京や大阪、熊本、中四国地域では愛媛や岡山など各地で開催されていた「PRIDE PARADE」。

昨年は、LGBTQ+の当事者の方や支援者の方など300人以上の方が、当事者の方々が誇りをもって生きれる街づくり、そして支え合える仲間がいるというメッセージを込めてひろしまの街を歩き、多くの人にメッセージを届けていました。

今年のテーマは【小さな一歩、つなげる、つな

がる】。パレードは1日限定ですが、生活は日々続いています。このイベントをきっかけに色々な人がつながり、自分らしく生活できるきっかけにしたい…。そんな思いが込められているようです。

今年は、11月23日（月・祝）の午後に開催されます。写真展も同時開催されるようです。

ぜひこの機会にセクシャルマイノリティや多様性のことを知っていただけると嬉しいです。

詳細はこちらから→

